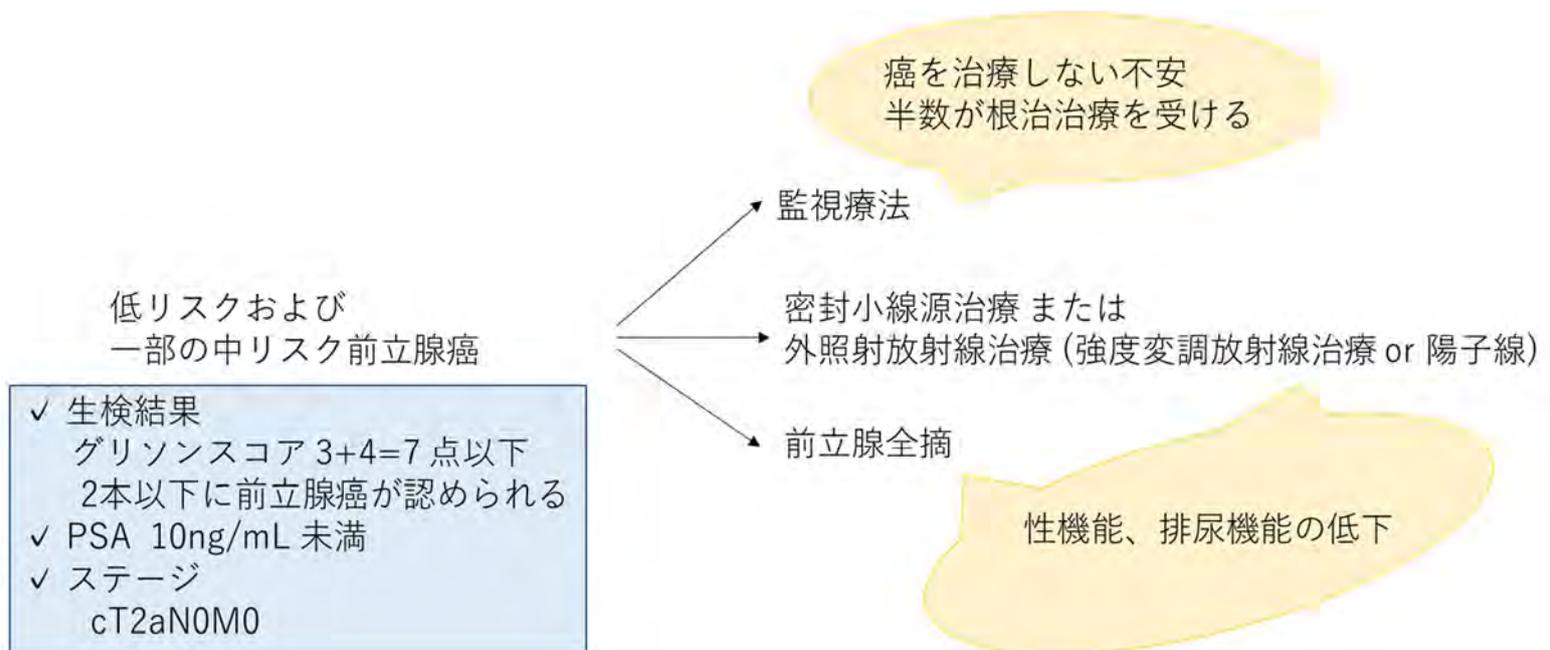


局所密封小線源治療

◎ はじめに

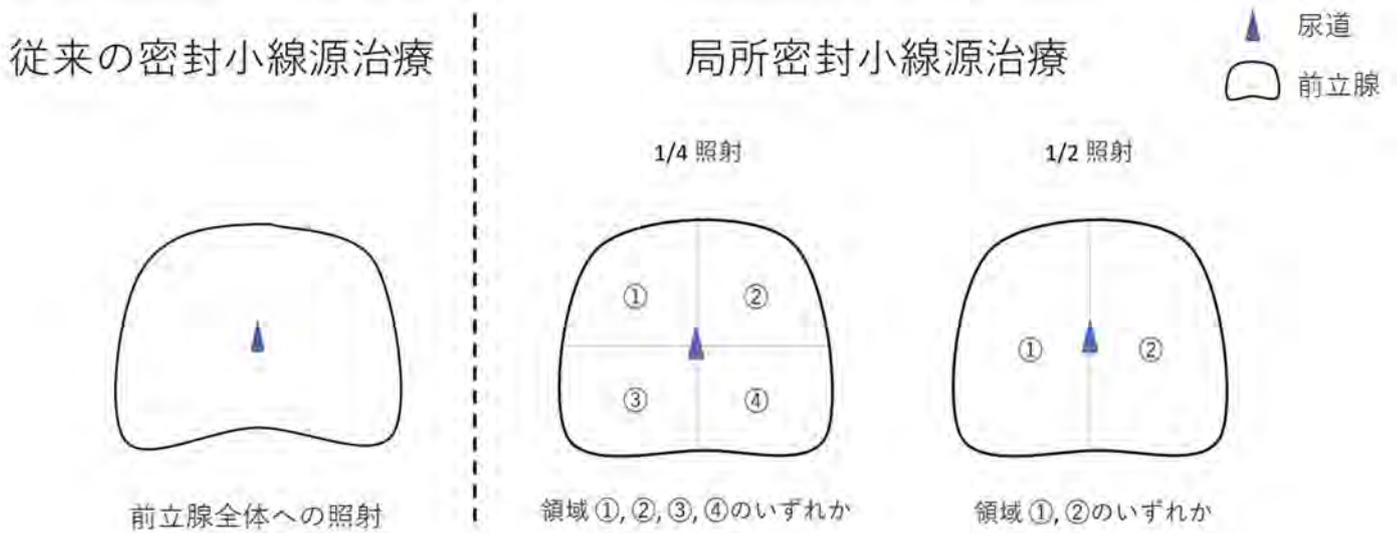
低リスクや一部の中リスクの前立腺癌と診断された患者さんにおいては、治療を行わず経過をみる監視療法、前立腺を摘出する手術、放射線による治療、いずれも選択可能です。しかし、治療を行わない監視療法においては、前立腺癌を治療しないという不安、および後に半数の患者さまにおいて手術や放射線治療を受けるといった問題点があります。一方、手術治療や放射線治療においては、治療後の排尿機能および性機能の低下を避けることができません。



そこで、性機能や排尿機能の低下を抑えながら、前立腺癌を治療する方法として、**局所治療**が注目されています。

◎ 局所密封小線源治療

当院では 2004 年から密封小線源治療を行い、現在までに 1900 例以上の患者さんに行ってまいりました。従来の密封小線源治療は前立腺全体に線源を留置し、前立腺全体を治療します。一方、局所密封小線源治療においては癌が存在している部分のみに線源を留置します。留置する線源を減らし、放射線の照射量を減らすことで、性機能や排尿機能の低下を抑えながら、前立腺癌を治療することを可能とする治療です。



しかし、前立腺癌が本当に一部に存在するのかをサチュレーション生検※(麻酔をかけて、前立腺のすべての部位に生検を行う)を治療前に行い、さらに、治療3年後に治療効果を判断するために行います。つまり、2回生検検査が必要となります。

